米国オレゴン州旅行（1998）
―その１：旅程と環境問題―

はじめに

　私の様な旅行は例外なのかと思っておりましたら、今日の日経（１９ページ）に”ゆっくり滞在”楽しむ、シニア層の旅行に新風と言う記事（１／４ページ）がありました。

　初めての行き先の場合、パック旅行の方が効果的に重要な（？）見所を効率よく周りますので経済的と思います。私達夫婦は体力がないためパック旅行についてゆけないためどうしても自分達オリジナルな旅行になってしまいます。基本はビジネスクラスの航空機、ホテルは同じ場所に２－３泊です。旅行の企画は妻の役目、パック旅行のパンフレット集め、観光案内所での資料集め、ガイドブックの購入と検討。あらすじが出来上がると航空機の予約、レンタカーの予約、ホテルの予約などの事務作業は私の役目。

Ｉ．　旅程

７月０７日（火）タクシーで新宿へ
成田エクスプレスで成田へ
１６：２０成田発NW００８便でシアトルへ
９：１０到着、シアトルからは１１：３０発の
アラスカ航空でユージン（Eugene)へ、
１２：１５着、飛行場でレンタカー（ＡＶＩＳ）
ホテルへ
Valley River Inn に２泊

７月０９日（木）Eugene から Crater Lake へ移動
Crater Lake Lodge に２泊

７月１１日（土）Crater Lake から Bend へ移動
Shilo Inn に３泊

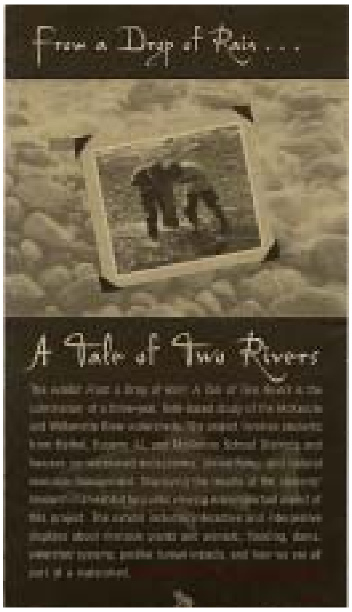
７月１４日（火）Bend から Welches へ移動
The Resort at the Mountain に３泊

７月１７日（木）Welches から Portland へ移動
Marriott Portland に５泊

７月２２日（水）空港でレンタカー返却
ポートランド１１：３０発アラスカ航空で
シアトルへ１２：１５着
シアトル発１４：５０NW００７便で一路
日本へ

７月２３日（木）成田着１６：４５（実際には２５分早く到着）
成田エクスプレスで新宿へ
タクシーで帰宅

II.　環境に関連した観察



（１）中高生の自然観察

Eugene の市内に在る University of Oregon の Museum of Natural History で"from a Drop of Rain---, A Tale of Two Rivers"（雨の一滴から－－－、二つの川の物語）と言う特別展示がありました。これは Eugene を流れる二つの大きな川（McKenzie River と Willamette River)流域をエコシステム、河川管理、自然資源管理にフォーカスをあてて地元の８つの中高校の生徒が地域とテーマを分担して、川沿いの植物と動物、洪水、ダム、流域の施設、人間へのプラスの影響など、流域のすべての部分の関わりについて３年間共同研究した成果の発表でした。日本でも環境学習は盛んになってきましたが、このように、地元の幾つかの中高校の生徒が地域とテーマを分担して３年間かけて集大成した点に、感銘を受けました。

（２）分別ごみ箱

Eugene の市内に在る University of Oregon の 構内にあるごみ箱は二つがペアーで置かれており、その一つに大きくリサイクルのマークがプリントされていました。
日本でも、新聞雑誌、空缶、空き瓶、その他に分別して捨てる方法が、コンビニエンスストア、鉄道の駅、公共施設などで普及してきましたが、米国との違いは日本では ” 何をどの箱に捨てるか ” ですが、米国では ” 何のために分別して捨てるか ” にあります。以前、” 夏時間 ” と ” Daylight Saving Time ” の話をしましたが、日米のものの考え方のちがいが表れています。もっとも、ゴミの場合は、米国が埋め立て、日本が焼却中心に処理していることも影響しているかも知れません。

リサイクルの表示はこの他に、Crater Lake でも見ました。そこのは大きな金属製の丈夫な箱型で左右２つに分かれており、左側がリサイクルマークが大きくプリントされていてその横にアルミ缶とビンと書いてありました。ここではアルミ缶とビンが一緒に集められていました。また、ビンも無色と有色の差別はされていませんでした。右側はその他と書いてありました。

BEND の市内では町角にリサイクルと表示したポールがあり、その下に二つの円形の容器が付属していて、リサイクルゴミとその他のゴミを区別して捨てるようになっていました。

不思議なのは新聞雑誌の捨て場がありませんでした。恐らく、別ルートがあるのだと思います。

（３）ホテルでの水の節約

今回宿泊した全てのホテルで、積極的な水の節約運動がありました。枕元と洗面所にプラスチックコーテイングしたホテル協会発行の協力要請書が置いてあり、ＥＰＡ（米国環境局）のデータを引用してホテルでの水の使用量は水使用量全体の可成の部分を占めるので、限られた資源を有効に利用する為、泊まり客の協力を要請するものでした。具体的には、連泊の場合、シーツの交換を省いて良い場合は協力要請書を枕の上に乗せておくとベッドメーキングはするが交換はしない合図となる。タオルは大中小が 4 組ほど備えられているが、交換してほしいものだけバスタブまたは床に置いておく、ハンガーに吊るされているものは交換しない。

このシステムはスウエーデンでは以前からあったが、米国で経験したのは初めてでした。

（４）レストランの水のサービス

以前から、欧米では只の水を出すところが少なかったが、今回は徹底されているのに驚いた。ほとんどのレストランでリクエストしないと水を持ってきてくれない。テーブルにやはりＥＰＡのメッセージがあり、コップ一杯の水をサービスする時、その水が飲まれようと飲まれまいと洗浄等に６杯分の水が使用されるので、節約の為、希望がなければ、水は出しませんとあった。20 年ほど前、カリフォルニア州で異常渇水があり、その時も、同様のメッセージがレストランにあったがその時は渇水と言う非常時対策であったが、今回は有限の自然資源保護と言う次元の一つ上のアクションのように思った。

（５）道路のゴミ拾い

Eugene から Crater Lake へ行く途中 58 号線で面白い場面に出会いました。"Litter collection ahead"と言うひし形の大きな表示が何回かあり、しばらく行くと黄色い袋を持った人達が道路脇のゴミを集めていました。その間、数マイル位でした。米国でもポイ捨てはあるようです。以前、ワシントン州を旅行した時、5 マイルぐらいを一区間として、地域の学校、ライオンズクラブ、ウーマンズクラブ、会社などがボランテイアで道路の清掃を受け持つ表示を見ましたが,環境学習には良い制度と思います。一方で、"Litter Fine $100"（ポイ棄て罰金 100 ドル）などの表示はいたるところで見ます。

１５、６日の旅行での経験から全てを判断出来ないが、大量生産、大量消費、大量廃棄の大元である米国でもと言うか、だからこそと言うか、リサイクルは大きな流れになっていることを実感した。最も、大量廃棄の必要ない社会作りが理想とは思うが。

（６）リサイクルの普及

Seattle-Eugene, Portland-Seattle で利用したアラスカ航空では飲み物のサービスの時、配られたナフキンがリサイクル品でした。

This Second Nature PLUS napkin is made with Recycled Paper Product Bleach-Free Process Post-Consumer Grade Material

と書いてありました。
ポートランドのコーヒーショップでもやはりリサイクルナフキンを使用していました。
Made from 100% recycled fibers.
Minimum 30% post-consumer material.
No bleach was used to make this napkin.
Printed in the USA.
同じコーヒーショップでは紙コップの外側にダンボール状の持ち手兼保温の帯がついていましたが、一方に次のような表示があり、
This insulating sleeve is made from 60% post consumer recycled fiber and uses approximately 45% less material than a second paper cup. Intended for single use only.
反対側に
Careful, the beverage you're about to enjoy is extremely hot.
と表示がありました。
ポートランド市内の Drug Store の袋には Recyclable Package と表示されていました。ポートランド市内の自然食料品店のバッグは紙かプラスチックを選べます。以前、お話したと思いますが、3 年ほど前、ワシントン州の La Conner でのスーパーマーケットでの経験ですが、買い物をレジへ持っていくと、レジの人が"Paper or Plastic ?"と聞いてきました。私が判らないでいると、家内が即座に"Paper"と答えましたので、紙袋に品物を入れてくれました。後で家内に、なぜ判ったのかと聞きましたところ、良く支払いは現金かクレジットカードか(Cash or Charge ?) と聞かれるので最近は"Paper or Plastic ?" すなわち Paper は紙幣、Plastic はクレジットカードかと思ったと言っていたことを思い出しました。まさに、こんにゃく問答です。それはさて置き、話を自然食料品店のバッグに戻します。今回は紙とプラスチックの両方をもらいました。なぜかと申しますと袋の表面に有用な事が書かれていたからです。まず、紙の袋ですが、At a glance と言う囲みがあり自然食品の有用性を謳っていました。
その隣に Nature's （自然食品店の名前）will pay you 5 cents to reuse this bag on your next visit. Just bring in your Nature's bag and you will get a 5 cents credit on your purchase.
Once is not enough.
reuse, recup, reclaim, recover, refill, repair, redeem, rethink, recycle, relive, recharge, reform, revamp, rebirth, repeat, recoup, return, refresh, renew, revive, rebuild
などの単語がならべられていました。
裏面には自然食品を買う 7 つの理由(7 reasons to buy Organic!)として
Preserve rural communities
Organic farmers work with nature

Organic food tastes great!
Protect water quality
We owe it to the children
Organic products are guaranteed
Organic farmers build soil
を挙げていました。
更に、そこには"Bagging skills"（賢い詰め方）として４項目挙げていました。
最後に、This bag is made from recycled paper: A minimum of 60% post consumer fiber. Close the loop, Recycle, Reuse とありました。
袋を２重に使わないように、紙の取手がついています。そして、
Pull handles up, not out.(垂直に使用する場合には十分な強度がありますが、
横に引くと弱い事を示しています。)
（７）もう一つ、エコ関係で最も重要な事を書き落としていました。
それはポートランドがエコシテイと言う事です。市民に馴染んだ効率的な公共交通機関が市の前向きな都市計画の方向性を示しています。Tri-Met と呼ばれる公共交通機関（バスと電車）が整備されつつあり、今年の後半には完成することになっています。基本方針は自動車の利用を出来るだけ押さえる為、バスも電車も中心部（中心部約３００ブロック）は無料です（Fareless Square と呼んでいました)。

バスの専用道路に５と６丁目（中心の東西に走る道路）が指定されていて公共バス以外は入れません。料金はブロックが 3 つに分かれており、ブロック内は＄１．０５、3つのブロックにまたがると＄１．３５、7 歳以下は無料その他の子供は＄０．８、シニア（65 歳以上）はブロックに関係なく＄０．５、一日券は＄３．２５。バス電車共共通で利用出来、定められた時間内ならば乗り降り、乗り換え自由。車椅子で、乗り降り出来るように一部のドアは低く作られている。
試しに、電車で終点（Gresham-Cleveland Avenue)まで行ってみた。
３ブロックなので料金は＄１．３５ｘ２二人で＄２．７０、制限時間は 1 時間 45 分。
距離は約 15 マイル。往復してちょうど制限時間ぎりぎり、一度検札があった。この電車は The MAX(Metropolitan Area Express) light rail と呼ばれ、４両編成、通勤時間には７分間隔、その他は１５分間隔、市内は路面電車で、のろのろ運転、郊外になると通常の鉄道

の速さに変身。車両の扉は路面電車なみに低く、幾つかの駅では郊外の複数のバスが同時にホームに斜めに横付け出来るようになっていて、バス連絡のない駅は駅前に、駐車場が整備されていた。現在は中心から東に伸びているが、今年の9月には西へも(Hillsboro まで）同様な路線が開通する予定である。

東京では既に地域全体に地下鉄、バス、私鉄が走っており、ポートランドは参考にならないが、人口が市のみで５０万人、都市圏では１７０万人の試みとして、良い点は吸収したいと思う。